

平成30年度 学校評価表

【学園の指標】

(1) 自主自立の精神に富み、気品高き自治の学園
(2) 誠実、勤勉にして、社会的秩序を重んずる学園
(3) 職員、師弟、校友相睦み合う、友愛協和の学園

【重点目標】

(1)自主的な高校生活【自主自立】	①将来の目標を明確にし、その実現に向けて努力する。 ②出雲高校生としての誇りを持ち、品位ある言動を心がける。 ③心身の健康の保持・増進に努める。
(2)活力に満ちた高校生活【文武両道】	①日々の授業を大切にし、家庭学習の充実をはかる。 ②部活動・生徒会活動・学校行事等に積極的に参加し、心身の成長をはかる。
(3)心のふれあう高校生活【友愛協和】	①気持ちの良い挨拶をこころがけ、豊かな人間関係を築く。 ②友人や周囲の人を思いやる心を培うとともに、互いの存在を認め合う。 ③さまざまな機会をとらえ、教職員や地域の人々とふれあう機会を持つ。

島根県立出雲高等学校

出雲高校 キーワード&スローガン

「自立」「協働」「挑戦」

やってみなはれ！

評価の指標(肯定的評価値の割合) A:80%以上(満足できる) B:60~79%(もう少し) C:50~59%(改善が望ましい) D:49%以下(改善が必要)

教育目標	目標(評価項目)	目標達成のための施策	主たる担当分掌	評価指標	自己評価					総合評価	学校関係者評価
					目標値[a] % (昨年)	評価値[b] % (昨年)	達成指数 [b/a] % (昨年)	平均評点 [総和/4] (昨年)	取組状況と課題	改善策	
環境整備	○学びやすい環境の構築 ○働きやすい環境の構築	(1)教育目標及び重点目標の達成に向けた教育活動が行われている。	管理職 総務 図書文化情報 保健 事務	80 80 80 80 80 80 80	100 98.3 94.5 100 94.8 78.9 100	125% 123% 118% 125% 119% 99% 125%	3.4 3.3 3.3 3.6 3.4 3.0 3.4	123% 121% 121% 125% 108% 110% 125%	・目標の達成のために全教職員が連携して取り組んだ。教職員の自己評価のでは肯定的評価が100%に達し、高い意識をもって目標達成に取り組んだと考える。 ・PTA役員の積極的な取り組みのおかげで、円滑な運営ができた。保護者授業公開の参加者が少なかった。 ・これまでの取り組みを維持することを心がけている。ほぼ計画通りに進んでいると考えている。昨年度に継続高い評価を得た。 ・一昨年からの課題であった生徒の「図書館の利用しやすさ」に関する評価が上昇した。校内各所と連携を図り、図書館での授業が重複しないように調整することなどが奏功したと思う。 ・新たなICT機器の導入に伴う、ルール作りを手がけ始めている。 ・各掃除場所に清掃作業の手順をまとめたものを掲示する。 ・限られた予算なので、今後も費用対効果や優先順位に留意し訂正な予算執行に努めたい。	A A A A A B A	・アンケート結果から、学校の教育目標や達成のための取り組みについて教職員間の共通理解が深まっていると感じた。 ・SSH、SGH事業に取り組むことで生徒達は大学受験の面接等に役立っているものもあるが、それよりも人の生き方や地域とのつながりといったことが見えてきていると、研究成果から感じた。 ・新テストで求められるものは新しい価値を生み出す能力であり、それに対する準備が必要である。SGH事業は本年度で終わるが、補助金がなくなってしまうも長期的ビジョンで新しいことに挑戦してほしい。地域との関わりや日常の中にある課題に気づき、徐々に進展・発展してほしい。 ・保護者宛の文書では、保護者が何を求めている考えり見ややすくするなど、保護者の目線で工夫して欲しい。 ・校内美化が気になった。ゴミを減らすことは清掃とは観点が違うので、どのようにすると効果があるのか工夫してもらいたい。
		(2)PTA活動やPTAの広報等を通して保護者との連携を図る。			98.3 96.4	123% 121%	3.3 3.4	3.4	・保護者の意見を伺いながら、日程やあり方を再検討する。	A	・SSH、SGH事業に取り組むことで生徒達は大学受験の面接等に役立っているものもあるが、それよりも人の生き方や地域とのつながりといったことが見えてきていると、研究成果から感じた。
		(3)ホームページにより保護者・地域への広報活動を行う。			94.5 96.4	118% 121%	3.3 3.3	3.3	・これまでの取り組みを維持することを心がけている。ほぼ計画通りに進んでいると考えている。昨年度に継続高い評価を得た。	A	・ホームページには今後100周年関係の情報をアップすることになる。 ・ホームページの更新は皆様のおかげで、頻回である。今後とも協力をお願いしたい。
		(4)生徒の健全な教養を育成するために適切な資料を整え、利用しやすい図書館運営を行う。			100 98.2	125% 125%	3.6 3.6	3.6	・探究活動には、書籍と、インターネットでの検索を掛け合わせながら進める環境を整えることが、不可欠である。しかし、ノートパソコン（8台）とタブレットは購入から6年が経過し、次々と不具合がでてきている。学習環境の整備が急がれる。	A	・新テストで求められるものは新しい価値を生み出す能力であり、それに対する準備が必要である。SGH事業は本年度で終わるが、補助金がなくなってしまうも長期的ビジョンで新しいことに挑戦してほしい。
		(5)学習活動に即応できるICT機器利用の環境を整える。			94.8 87.9	119% 108%	3.4 3.3	3.3	・新たなICT機器の導入に伴う、ルール作りを手がけ始めている。	A	・保護者宛の文書では、保護者が何を求めている考えり見ややすくするなど、保護者の目線で工夫して欲しい。
		(6)校内美化が保てるよう、積極的に清掃活動を行う。			78.9 82.5	99% 110%	3.0 3.0	3.0	・清掃への取り組み、ゴミの減量化について、積極的に働きかけをしなかった。働きかけが必要なようである。	A	・各掃除場所に清掃作業の手順をまとめたものを掲示する。 ・大掃除の際も重点的に行なうべき作業を示す。
		(7)費用対効果を考えた効率的な予算執行を行う。			100 96.6	125% 125%	3.4 3.4	3.4	・各部・教科への予算要望調査や教育環境の変化を把握し、より高い効果が得られるよう計画的で効率的な予算執行を行った。	A	・限られた予算なので、今後も費用対効果や優先順位に留意し訂正な予算執行に努めたい。
地域・社会のリーダーとして貢献できる人材の育成	○自他を尊重する精神の育成 ○豊かな人間性の育成	(8)生徒が主体的に取り組めるような生徒会運営を行う。	生徒 図書文化情報 生徒	80 80 80 80	94.9 98.2	119% 125%	3.4 3.4	3.4	・久微祭では生徒会が中心となって主体的に活動ができた。しかし、生徒会担当教員への負担が大きく、各部署との連携不足な面もあった。	A	・以前と比べ、学校の雰囲気がいい方向に変わってきたと感じる。先生の思いが生徒に伝わっており、子どもが楽しそうに学校生活を送っている。
		(9)生徒が主体的に読書活動に取り組み、能動的に資料活用ができるよう支援する。			96.6 98.1	121% 125%	3.4 3.5	3.5	・新着案内、展示などの環境を整えた。授業やオリエンテーションで資料の探し方や使い方を紹介した。	A	・図書館から情報提供を継続する。探究活動や教科の学習活動も引き続き積極的に支援する。
		(10)人権・同和教育に係るホールーム活動や講演会等の学習をとおして、人権感覚を育成し、自他の人権を尊重しあう意識の醸成を図る。			96.5 89.5	121% 118%	3.2 3.1	3.1	・ホールーム活動や講演会など計画どおりに実施できた。活動を通して差別を許さない態度が養われた。	A	・人権・同和教育は、幼・保・小・中学校ではかなり学ばせており、「人と人のきずなについて」などが扱われている。今後は高校も授業参観に行くなどして繋のつながりが必要になる。
		(11)いじめに関するアンケートやアンケートQU等を活用し、いじめを許さない意識を醸成する。			96.6 94.7	121% 119%	3.4 3.3	3.3	・年4回のいじめに関するアンケートを実施した。いじめ防止委員会を定期的に開催し、教職員の情報交換を行い、いじめ防止に努めた。組織的にいじめを認知し、いじめへの対策を講じた。全体的には良好であるが、部活動内での人間関係に悩む生徒がいる。	A	・いじめに関するアンケートの実施方法について、生徒が安心して相談ができる体制を検討していく。アンケートのみならず、様々な教育活動において生徒観察を組織的に行なうよう教職員の連携を図る。
	○規範意識の定着 ○基本的生活習慣の確立	(12)服装検査や街頭指導、集会指導等のあらゆる機会をとらえて、基本的生活習慣の確立にむけた指導を行う。	生徒 生徒・保護者アンケートの結果 教職員自己評価における肯定的評価の割合	80 80 80	81.4 71.9	102% 102%	3.0 2.8	2.8	・携帯電話違反使用件数が増加したが、3学期に入り減少した。生徒部員が登校時、昇降口で声かけをしたことにより、基本的生活習慣の確立に良い影響を与えることができた。	A	・学校生活を通してストレスを感じている生徒もいると思うが、何か対策はあるだろうか。学校によってはイベントやクラブ活動を活用している例があるらしい。
		(13)部顧問会や大会・遠征等の支援を行なう部活動の活性化を図るとともに、規律ある活動に向けた指導を徹底する。			82.5 71.4	103% 88%	3.0 2.8	2.8	・昨年度末に申し合わせ事項について検討してきた。大きな内容の変更是なかったが、検討する過程の中で教職員の共通理解を図り、今年度スタートすることができた。部活動代表者会議を定期的に行ない、生徒への申し合わせ事項の徹底を図った。	A	・年々学校が多忙化しているとも聞いており先生方のストレスも心配である。
		(14)街頭指導や自転車点検等の施策を行うことで、生徒の交通安全指導を徹底する。			91.2 84.5	114% 114%	3.2 3.1	3.1	・年度当初に自転車点検を実施した。1、2学期に街頭指導を行い、交通安全への意識向上の啓発活動を行なった。自動車での送迎や自転車マナーについて近隣の住民から指導をうけたこともあった。	A	・交通ルールの遵守徹底を図っていく。交通社会の一員であることを自覚させ、地域社会との共生をめざし、指導を工夫していく。
確かな学力の養成	○基礎・基本の定着 ○主体的な学習態度の育成	(15)各教科と連携して教員の指導力向上やアクティブラーニング等の指導方法の研究を行い、教科指導の充実を図る。	教務 キャリア教育 学年部	80 80 80 80	91.5 91.2	114% 116%	3.3 3.3	3.3	・携帯電話違反使用件数が増加したが、3学期に入り減少した。生徒部員が登校時、昇降口で声かけをしたことにより、基本的生活習慣の確立に良い影響を与えることができた。	A	・生徒に出了された課題や補習授業の在り方について、生徒の評価が学年により大きく異なっている。学年によっては、課題や補習授業の持つ意味を丁寧に説明するなどの対策が必要ではないか。
		(16)土曜補講や休日の自習開放を行い、自学自習の意識の高揚と積極的な学習参加の姿勢の醸成を図る。			81.4 86.2	102% 110%	3.0 3.2	3.2	・土曜補講について教科・学年会で検討していただいた。3年生は継続実施する。	A	・1・2年生の土曜補講について、次年度については実施をどうするか検討中である。
		(17)3年生の放課後補講を適切に実施し、生徒個々の進路志望の達成に向けた学力向上に役立てる。			96.5 90.6	121% 121%	3.4 3.3	3.3	・計画通りに実施することができた。例年以上に高い評価を得ることができた。	A	・生徒の学力保障のために、さらに工夫を重ねて実施する。
		(18)1年生が受験する新テストに関する情報を研究・整理し、教職員・生徒・保護者に発信する。			68.6 80	86% 80	2.8 2.8	3.1	・新テストに関して発信する情報が少なく、低い評価になった。	B	・公表され次第、迅速に情報を発信していく。
	○望ましい職業観の育成 ○能力・適性の実現	(19)3年間を見通した進路指導計画のもと、適切な情報提供により、生徒・保護者の進路意識の高揚を図る。	キャリア教育	80 80 80 80	100 98.3	125% 119%	3.5 3.5	3.5	・計画通りに実施することができた。例年以上に高い評価を得ることができた。	A	・生徒や教員の多忙感を訴えるだけでなく新テストを教育を進展させるよい機会ととらえて、新しいスタートとして欲しい。
		(20)進路希望調査、職業人講話、久微セレンティビティなどを行なう、キャリア教育に対する意識の高揚を図る。			98.3 98.3	123% 112%	3.5 3.5	3.5	・ほぼ計画通りに実施することができた。久微セレンティビティや金曜特別講座の受講者数が少ないことが課題である。	A	・生徒とGRITizmノートを使って面接をするなど使い方をもう一度教えてはどうか。
		(21)個別添削、小論文指導や面接指導を組織的に行なう、進路実現を支援する。			96.4 87.3	121% 118%	3.4 3.2	3.2	・計画通りに実施することができた。例年以上に高い評価を得ることができた。	A	・生徒にも多忙感があるということが明らかになつたので、これをよい機会ととらえて教育活動の改善に活かしてほしい。
		(22)各種研修や課題研究などを通してSSH・SGH事業と科学系人材・グローバル人材育成のための取り組みの充実を図る。			94.9 96.5	119% 121%	3.3 3.4	3.4	・新設学校設定科目の開発は予定どおり実施でき、既設のものも指導法の改善等に取り組むことができた。 ・新設科目（Basic Science）については、教科横断的に、より効果的な指導内容の検討が必要である。 ・SSH・SGH事業推進に関して積極的に取り組み、地元企業等新たな連携先を構築できた。 ・理数教育振興とグローバル人材育成の面で、より組織的な取り組みが求められる。	A	